

埼玉親善大使レポート

西條由香

ドイツ・ザールブリュッケン

1. 埼玉県親善大使としての活動

今回のドイツ・ザールブリュッケンでの留学において、私は日常的な交流や大学での活動を通して、埼玉県の魅力を伝える機会を得ました。

大学では、日本語チューターとして学生と関わる中で、出身地について紹介する場面があり、その際に埼玉県について話しました。「東京の隣に位置していながら、自然や歴史を感じられる地域である」という特徴を伝えると、多くの学生が関心を示してくれました。特に、都市に近い場所でありながら自然環境が残っている点は、ドイツの学生にとっても興味深いものであったと感じています。

私のクラスを受講していた学生が日本へ留学した際には、多くの学生が埼玉県を訪れ、その様子を写真で共有してくれました。このような反応を得られたことは非常に嬉しく、やりがいを感じました。

大きなイベントでの発信だけでなく、日常的な対話の中で継続的に情報を伝えていくことが、地域への理解や関心につながることを実感しました。

2. 現地での生活を通して

ドイツでの生活は、自分にとって慣れないことが多く、当初は戸惑うこともありました。

特に印象的だったのは、「自分の意見を持ち、それを表現すること」が重視されている社会であるという点です。大学の授業では、学生が積極的に発言し、議論に参加することが求められました。単に知識を身につけるだけでなく、自分の考えを持つことの重要性を強く感じました。

また、日常生活においては環境意識の高さが印象に残っています。リサイクルの徹底やパッケージの簡素化など、持続可能な社会に向けた取り組みが生活の中に根付いていました。一方で、環境負荷を考慮し、毎日シャワーを浴びることを推奨しないシェアハウスのルールなど、適応に苦労する面もありました。しかし、その背景にある考え方を理解することで、徐々に受け入れられるよう努めました。

さらに、ドイツは多様な文化的背景を持つ人々が共存する社会であり、さまざまな国から来た人々と関わる機会がありました。異なる価値観に触れる中で、違いを前提に互いを尊重する姿勢の重要性を実感しました。

個人的には、一年の多くが曇天である気候は精神的に負担を感じることもありました。友人と室内でボードゲームを楽しむなどして、日々の生活を前向きに過ごす工夫をしました。また、円安の影響もあり生活費の負担は大きく、特に家賃や光熱費の上昇は厳しいものでした。しかし、「埼玉発世界行き」奨学金の支援により、安心して留學生活を送ることができ

ました。

3. 大学での勉強・研究について

学業面では、Educational Technology を専攻し、教育とテクノロジーの関係について学びました。授業では、マルチメディア学習、インストラクショナルデザイン、協働学習、研究手法などを履修し、教育をどのように設計するかという視点を身につけました。

特に印象的だったのは、単に技術を活用するのではなく、「学習者にとってどのような意味があるのか」を重視する考え方です。教育におけるテクノロジーは、効率化のためだけではなく、学びの質を高めるためにどのように活用するかが重要であると学びました。

また、すべての授業にグループワークが含まれており、受け身ではなく主体的に発信し、仲間とともに成果を作り上げる姿勢が求められました。

修士論文では、「生成 AI に対する子どもたちの態度」について研究を行いました。アンケート調査の結果、子どもたちは AI に対して興味や期待を抱く一方で、不安や慎重な見方も併せ持っていることが明らかになりました。すなわち、AI に対する態度は単純な賛否ではなく、多面的に構成されていることが示されました。

この研究を通して、AI を教育に取り入れる際には、子どもたちの理解や感じ方を踏まえることが重要であると考えようになりました。

4. まとめ

今回の留学を通じて、埼玉県の魅力在海外に発信するとともに、ドイツの文化・社会・教育について多くの学びを得ることができました。

特に、主体的に学ぶ姿勢、多様性を尊重する価値は、今後の社会において重要な視点であると感じました。また、海外から自分の出身地を見つめ直すことで、日本や埼玉県の特徴や魅力を改めて認識する機会となりました。

今回の経験は、今後の学びやキャリアにおいて大きな財産になると考えています。今後もこの経験を活かしながら、さらなる成長と視野の拡大に努めていきたいです。

最後に、「埼玉発世界行き」奨学金を通じて、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。



大学院同期と過ごす休み時間の様子



大学の様子